



## ■ 成果指標

成果指標名		単位	現状値	実績値 (R6)	目標値
1	設定なし				
2					
3					
4					
5					

## ■ 計画の実績等

取組実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な手法で高齢者の相談窓口である地域包括支援センターの周知を図ったほか、重層的支援体制を構築することで高齢者支援の体制整備の充実を図った。</li> <li>・サロン活動やちょこボラ活動などを支援するとともに普及促進を図った。</li> <li>・じぶんノート(エンディングノート)の作成や、多職種のバイタルリンクへの登録を促進した。</li> <li>・認知症サポーターの養成や認知症への理解促進・啓発を進めたほか、認定症高齢者やその家族を様々な手法で支援した。</li> <li>・高齢者の虐待防止や虐待対応、あるいは成年後見制度等、必要な権利擁護を進めた。</li> <li>・介護予防教室の開催や、健康体操の普及に努めた。</li> <li>・鈴鹿亀山地区広域連合第9期介護保険事業計画に定める施設整備が円滑に進むよう事務調整した。</li> </ul>
成果	だれもが役割を持つ中で支え合い、自分らしく活躍できる地域共生社会の実現に資するとともに、高齢者が住み慣れた地域で、安心して、自立と尊厳ある暮らしを実現できる社会の実現のため、高齢者を取り巻くあらゆる主体の連携と協働によって、本市ならではの地域包括ケアシステムの深化・推進を図ることができた。
総合計画 推進への 寄与度	本計画による取り組みの全てが、総合計画に掲げる「地域包括ケアシステムの推進」、「介護予防の推進」、「高齢者の生活と生きがいつくりの支援」、「認知症高齢者等対策の推進」につながったほか、総合計画に掲げる全ての成果指標についても、その目標達成に向けて寄与できた。

反省点・課題	「高齢者が住み慣れた地域で安心して生き生きと暮らせるまち」の実現のためには、公的サービスである「共助」のしくみから、高齢者本人の自立である「自助」、あるいは地域での支え合い活動等である「互助」のしくみへの更なるシフトチェンジを図ることが求められる。
--------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

今後の方向性	団塊ジュニア世代が65歳以上になる2040年を見据え、これまでの取り組みを発展させるとともに、高齢者を取り巻くあらゆる主体の連携と協働によって、本市ならではの地域包括ケアシステムの深化・推進を目指す。
--------	------------------------------------------------------------------------------------------------------